

黎明館企画展

大企画展「戦国島津」に続く第2弾

島津義弘

樺山善久

山田有信

島津豊久

新納忠元

## 戦国を駆け抜けた 島津四兄弟 と家臣団

島津義弘像(尚古集成館蔵・パネル)、島津豊久像(真田宝物館蔵・パネル)  
樺山善久像(個人蔵 黎明館保管)、新納忠元像・山田有信像(黎明館蔵)

11月は「文化芸術に親しむ月間」です。

令和元年

# 11月19日(火)

令和2年

# 11月19日(日)

休館日 / 11月25日

12月2・9・16・23・31日

1月1・2・6・14日

時間 / 9時～18時(入場は17時30分まで)

会場 / 黎明館3階企画展示室

料金 / 常設展示と共通

「一 般」 400円(300円)

「高校・大学生」 250円(150円)

「小・中学生」 150円(80円)

※(一)は20名以上の団体料金

※身体障害者手帳、療育手帳及び精神障害者保健福祉手帳の提示があった方とその介護者1名は免除

※県内の小・中学校、高等学校、特別支援学校の児童生徒とその引率者については、教育課程等に基づき活動として入館する場合は免除(事前申請が必要)

※県内に居住の70歳以上の方は無料

(年齢・住所が確認できる書類の提示が必要)

※県内に居住の18歳以下の方は、土・日・祝日に限り無料

(年齢・住所が確認できる書類の提示が必要)

鹿児島県歴史資料センター

# 黎明館

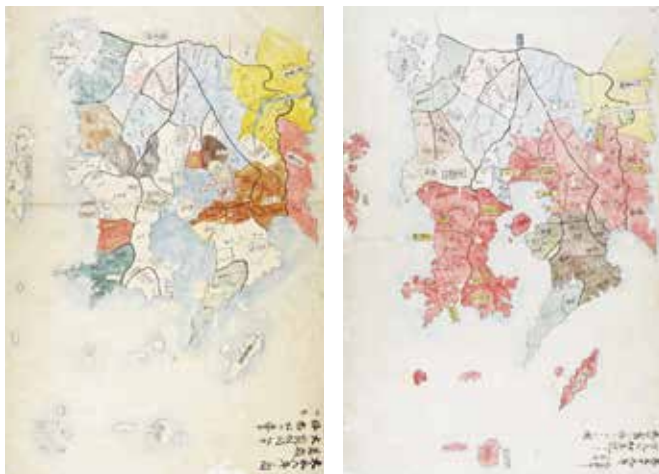
## 戦国を駆け抜けた島津四兄弟と家臣団

戦国大名の系譜を区分したとき、守護大名から戦国大名へと成長した事例として、島津氏が挙げられることがあります。しかし、戦国の世で生き残るためには、守護職のような古い権威だけでは通用せず、軍事的・政治的実力が必要不可欠であったのはいうまでもありません。戦国大名島津氏においても、一有力領主であった島津氏庶家の相州家が、軍事的・政治的実力をもって、奥州家から島津本宗家の地位を奪取し、戦国大名へと成長していったと考えられています。

本企画展では、戦国大名島津氏（相州家）が、薩州家といった有力一門家や、肝付氏、菱刈氏といった有力領主を支配下に組み込み、薩摩・大隅・日向の三州を統一し、さらに九州全土を席捲するにいたった過程を、また豊臣政権や徳川政権といかに対峙し、激動の時代を駆け抜けたのかを、遺された書状や絵図などをとおして、紹介します。

### 第1章 戦国大名島津氏 誕生

大永6（1526）年、島津本宗家・奥州家の勝久は、相州家の貴久を養子に迎え、その後、本宗家の家督を貴久に譲り隠居します。しかし、これに薩州家の実久が反発したのをはじめとして、以後、薩隅日三州では、有力領主たちを巻き込んでの、島津本宗家の家督継承をめぐる熾烈な争いが繰り返されました。



三州割拠図

左：大永6(1526)年図、右：天文19(1550)年図  
(個人蔵、黎明館保管)

この章では、相州家忠良・貴久父子が、島津本宗家の家督継承争いに勝利し、戦国大名へと成長していく様子を、有力領主の動向を交えながら紹介します。

### 第2章 島津氏の三州統一

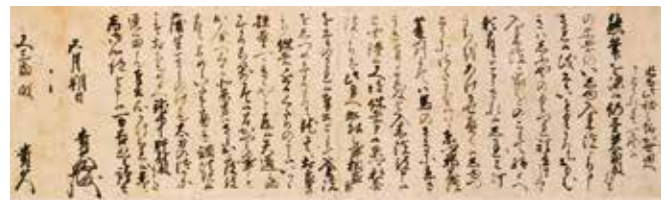
島津本宗家の家督継承を確かなものとし、鹿児島御内(内城)を拠点とした貴久でしたが、周囲には、敵対する有力領主が数多く割拠していました。貴久は天文23（1554）年から蒲生氏、祁答院氏らと、ついで肝付氏らと戦いを続けるなか、永禄9（1566）年に長子義久に守護職を譲りました。義久は弟の義弘、歳久、家久らとともに、渋谷一族、肝付氏、伊東氏などと戦い、三州統一を目指します。



『岩剣合戦記』

(個人蔵、黎明館保管)  
12月8日まではパネル

島津氏と蒲生氏・祁答院氏との合戦の記録。この合戦において島津勢が鉄砲を使用したことが記されている。



国宝 [天文廿四(1555)年カ]五月朔日 又三郎(義久)宛 島津貴久書状 (東京大学史料編纂所蔵 パネル)

敵対する有力領主と、時には同盟を結び、時には武力を持って対峙する姿勢をうかがうことが出来る。

この章では、義久・義弘・歳久の初陣となった天文23年の岩剣城合戦から、天正5（1577）年に日向の伊東氏を豊後に追い、三州統一を実現するまでの過程を紹介します。

### 第3章 島津氏 北上

三州を統一した島津氏でしたが、従属した有力領主や九州各地の領主からの支援要請などもあり、戦線は次第に北上、拡大していきます。天正6（1578）年には日向国に侵攻してきた豊後の大友勢を高城・耳川の合戦で撃退し、同9年には肥後国水俣で相良義陽を降伏させました。さらに、同12年には島原の沖田畷の戦いで肥前の龍造寺隆信を破るなど、島津氏は、一時、九州の大半を支配下に収めました。



天正6(1578)年  
11月4日付  
島津義久願文  
(霧島神宮蔵、黎明館保管)

大友氏との合戦を目前に控えた島津義久が、霧島権現に戦勝と加護を祈願した際の願文。



肥州響野原戦両軍配置図(模造) 原資料:個人蔵  
天正9(1581)年、島津氏は服属した肥後の相良義陽に、阿蘇大宮司家の家臣甲斐宗運を攻撃させた。その時の陣配置図。

この章では、天正13(1585)年に阿蘇氏を支配下に組み入れるまでの過程を紹介します。

#### 第4章 秀吉による九州平定とその後の島津氏

天正13(1585)年末、島津氏の下に、関白豊臣秀吉から豊後の大友氏との和平を命じる直書が届きます。島津氏はこの要請を拒否し、九州北部に侵攻を続け、一時は大友氏の本拠・府内を占領しますが、豊臣勢が次々と九州に上陸してくるなか、最終的に義久が秀吉に謁見し、降伏します。

その後、島津氏は、豊臣政権の一大名と



文禄4(1595)年  
三州各領改替図  
(個人蔵、黎明館保管)

して、太閤検地の実施や領地改替を受け入れ、また、文禄・慶長の役には、財政難のため軍勢や軍船・兵糧などの軍費調達に苦勞しながらも、義弘、久保、豊久らが出陣しました。



文禄4(1596)年8月6日付  
加藤清正等二十二名連署血判起請文(部分)  
(大阪城天守閣蔵 パネル)

朝鮮に在陣中の諸将が、万一秀吉に不慮の事態が起きた際は、秀頼に奉公することを誓約した起請文。10番目に「嶋津又八郎(忠恒)」, 16番目に「嶋津又七郎(豊久)」の名が見える。

秀吉の死後、慶長5(1600)年9月、徳川家康と石田三成の対立は、関ヶ原において天下を二分する戦いとなりました。石田方の西軍についての義弘は、西軍総崩れのなか、「敵中突破」を強行し、多くの家臣の犠牲を伴いながらも、国元に帰りつきます。その後の和平交渉においては、2年に及ぶ粘り強い交渉の末、従来と同様に、薩摩・大隅・日向諸県郡を安堵されました。

この章では、島津氏が、豊臣政権・徳川政権といった中央政権に、いかに対峙したのかを、またその時、活躍した家臣たちの姿を紹介します。

#### 【 関連行事 】

##### ○企画展解説講座(学芸講座を兼ねる)

「戦国を駆け抜けた島津四兄弟と家臣団」

日時: 2019年12月21日(土)

13:30 ~ 15:00

会場: 黎明館3階 講座室(80席)

講師: 黎明館学芸専門員 吉村 晃一

※聴講無料, 事前申込不要, 先着順

※講座終了後、企画展示室で展示解説を行います。その際は、常設展示団体入館料が必要です。

##### ○期間中、展示解説を実施します。

各30分程度。詳細は後日ホームページに掲載

『鹿児島県史料』編さん50周年記念

黎明館講演会

期日：平成31年2月23日(土)

## 「海外史料からみた薩摩藩

－在外日本関係史料の調査事業と鹿児島県史料－

東京大学史料編纂所 教授 保谷 徹 氏

### はじめに

日本に関係する史料は、海外にも多く存在している(在外日本関係史料)。特に幕末期の薩摩藩に関係する史料は比較的多く残存しており、国内史料と外国史料を組み合わせ、付き合わせていきながら、世界史的な視野に立って鹿児島を位置付けてみることは重要な作業であるように思われる。

### 在外日本関係史料の調査と研究資源化

在外日本関係史料には、外国の政府・機関・個人等で作成・蓄積されたものと、海外に持ち出されたものの二通りがあるが、私達が調査研究対象としているのは主に前者の方である。始まりはオランダのハーグで蓄積された史料の調査であり、その後、南欧地域の調査等を経て、1920年代に国際学士院連合の一員として日本が参加することで、在外日本関係史料の調査事業が本格的にスタートした。

また、特に幕末維新期の史料収集の点でいうと、文部省の維新史料編纂会が存在し、1930年前後にフランスで調査を実施した。この維新史料編纂会が東大の史料編纂所に吸収・合併され、現在の維新史料室の前身の一つとなっており、かつて調査された史料群が編纂所の書庫に保存されている。

戦後になると、在外日本関係史料をユネスコや国際学士院連合の協力の元に収集する事業が始まり、1970年代くらいまでにかけてマイクロフィルムの形で16世紀から19世紀後半までの史料が集められた。その中には、イエズス会などのキリシタン関係、イギリス・オランダの東インド会社の関係、19世紀後半の欧米各国における外務省史料、海軍省史料、植民省史料などが含まれている。概ね、世界20カ国・70機関からマイクロフィルムで約150万コマが集められたが、これらが史料編纂所にとっての大きな財産となっている。

そして現在でも、ロシアや中国において調査が続けられており、こうした在外日本関係史料の調査・収集



が、日本史研究に新しい研究素材として提供されるだけでなく、複数の言語による史料を利用する研究を進める機会になると考えている。

### 海外史料からみた薩摩藩－鹿児島戦争を中心に－

それでは、前述したような形で集めてきた史料が実際にどのように使えるかを、鹿児島戦争(薩英戦争)の例を取り上げて紹介したい。

イギリスの国立公文書館(TNA)には鹿児島戦争に関する様々な報告書や図面類があるが、史料の保存状況が非常に良く、調査のために利用することが可能であり、研究の進展に大いに役立っている。例えば生麦事件の賠償請求から薩英戦争に至る過程について、イギリス側からの捉え方がこれらの史料調査の中から鮮明に浮かび上がってくる。具体的にみると、サマセット海相がラッセル外相に宛てた二通の書翰からは、第二次東禅寺事件後に水兵の賠償請求にすら消極的であった海相が、生麦事件勃発後は一転して「英国臣民に対して無法を犯すと刑罰を受けずにはいられないと日本人に納得させるために我々はどのようにふるまうべきか」を論じるようになったことがわかる。この海相の意見に対してパーマストン首相も同意し、イギリスが幕府を介さずに攘夷を主張する個別大名への直接的な軍事的対応に乗り出すことになったことが見えてくる。このような状況は薩摩側の史料だけで見ていると、わからないことである。

近年、薩摩スチューデントの研究をはじめ鹿児島県でも積極的に海外史料の調査等に着手されていると伺っているが、『鹿児島県史料』の次の50年を考える上で、今後は在外史料の調査研究に基づいた「世界史の中の鹿児島県」ということを考えていく必要があるのではないかと強く感じている。

(文責 調査史料室)

## 山田匡得と島津豊久について

## はじめに

山田文書（宮崎県総合博物館蔵）に含まれる、島津義弘の家老伊集院久春（飯野地頭、元和2（1616）年73歳死去。初名は久信源助。肥前入道元巢とも。以下、元巢）が山田匡得に宛てた書状に、島津豊久（佐土原城主2代目。初名は忠豊。以下、豊久）が朝鮮在陣の際、匡得に面会を望んでいたことが述べられている。山田匡得とはどのような人物なのか、島津家とどのような関係があるのか調べてみた。

## 1 山田匡得について

山田匡得（酒谷（現宮崎県日南市）地頭。元和6（1620）年77歳死去。諱は宗昌、通称次郎三郎、後号土佐入道。以下、匡得）は、伊東家重臣であり、忠義に厚く、武功の誉高い人物であったという。伊東氏の豊後（現大分県）落ちの際には、大友家客将となり各地で奮闘している。匡得の高名は他国にも知られており、島津氏の襲来に肥後国（現熊本県）球磨周辺の諸侍は、大友氏を頼ろうと人望のあった匡得に仲介を頼んできた（山田文書3号）。大友宗麟は武功を立てる匡得に感状を与え、豊後に150町の知行を宛行いたいと申し入れをしたが、伊東家再興の志を持っていた匡得は、二君に仕えることは出来ないと知行を断った。その忠節に感涙した宗麟は、知行の代わりに大友家秘蔵の鎧を与えた（『日向纂記』）。その後、豊臣軍の九州侵攻により、伊東氏が日向に所領を回復した際には、匡得は伊東氏に帰参し、譜代家臣として、清武（現宮崎市）や酒谷に知行を宛行われた。

## 2 匡得と島津家について

匡得の経歴を辿っていくと島津家とは30年程敵対しており、永禄元（1558）年、飢肥楠原行尾カ尾（現日南市）の合戦では、猛将亀澤豊前を討ち取り、その様子は「鬼神」のようであったという（『日向記』）。永禄11（1568）年の飢肥での小越合戦では、仇敵である北郷家臣で勝岡（現宮崎県三股町）城主和田民部少輔を討ち取っている。また、天正6（1578）年、石ノ城（現宮崎県児湯郡木城町）では、書状にもあるように匡得と元巢は槍合をしており、元巢は伊東家臣平原左衛門を討ち取ったが、右股を負傷している。匡

得も太刀・鎧傷を負っているが、その手柄により大友義統から感状を賜っている（山田文書1号）。天正7年に伊東氏が伊予国（現愛媛県）に渡海後も匡得は豊後に残り、大友家臣梅牟礼（現大分県佐伯市）城主佐伯惟定を頼った。天正14（1586）年、島津家久（中務大輔）が佐伯軍の偵察を行った際、佐伯の「土民」を生捕りし、敵状を聞き出したところ、下げた針を打ち抜くほどの腕前の者が3000人いることが分かった。しかし、家久はその手練れの者たちよりも佐伯家中に一騎当千の匡得がいることを警戒したという（『日向纂記』）。その後、天正15（1587）年の堅田（現大分県佐伯市）合戦では、年若い佐伯惟定に代わり匡得が采配を振るい、島津軍を潰滅させた。

さらに、翌年、匡得は豊後から撤退する家久たちを梓峠（現宮崎県延岡市と大分県佐伯市の境）で追撃したが、眼前に追い詰めた家久を見逃したという。それは、島津家に捕虜となっている妻子や弟二人に害が及ぶことを考慮してのことだという（『日向纂記』）。

しかし、島津家で匡得の妻子は厚遇を受け、匡得が伊東家へ帰参した際には、金銀衣服を持たされて帰されたという（『日向記』）。さらに豊後での匡得の高名を知った島津義久からは、薩州に300町を宛行いたいと申し入れがあったが、匡得は丁重に辞退している（『日向纂記』）。

## おわりに

戦巧みな家久を追い詰め、尚且つ、主君に忠義を尽くす匡得は、島津家にとって敵でありながら敬畏の対象であったのだろう。匡得と豊久が実際に面会出来たかは不明であるが、父家久とも因縁のある匡得に豊久が会ってみたいと願ったとしても不思議ではあるまい。

（資料調査編集員 宮下 愛）

## 【参考文献】

- 『大分聯隊区管内に於ける郷土戦史の研究 第2輯』（帝国在郷軍人会大分支部、1927-1929年）
- 『鹿児島県史料 旧記雑録後編1』（鹿児島県、1981年）
- 『宮崎県史 史料編中世1』山田文書（宮崎県、1990年）
- 『大分県の地名』（平凡社、1995年）
- 『宮崎県の地名』（平凡社、1997年）
- 『宮崎県史 通史編中世』（宮崎県、1998年）
- 『清武町史 通史編上巻』（清武町合併特例区、2014年）
- 『清武町史 資料編1』（清武町合併特例区、2015年）
- 長友禎治「初代飢肥藩主伊東祐兵の夫人（松寿院）について」（『宮崎県地方史研究紀要』第32輯、2005年）



伊集院元巢書状 9月15日付(山田文書) 宮崎県総合博物館蔵

## 建設進む『御楼門』

### 完成は、令和2年3月予定！

黎明館正面では、現在、令和2年3月完成に向けて、鹿児島(鶴丸)城御楼門の建設工事が進んでいます。

鹿児島(鶴丸)城は、島津家初代藩主島津家久が、慶長6(1601)年頃に築城を始めた館造りの城です。築城当初は、背後の城山を本丸・二之丸とし、麓部分を居所としていました。この麓の館正面入り口に、城のシンボルとして御楼門が建っていました。

御楼門は、明治6(1873)年に火災で焼失して現存していませんが、明治5(1872)年に撮影された古写真の解析や、現存する礎石に残る痕跡等から、高さ約20m(鯨まで)、幅約20mの国内最大の城門であったとされています。



▲礎石に残る柱の痕跡



▲明治5年撮影の古写真 黎明館蔵 玉里島津家資料(部分)

建設に際しては、発掘調査の成果や専門家の指導・助言を得ながら、可能な限り史実に忠実な復元を行っています。

工事では、建設の様子をより身近な場所から見学できるように、見学者通路を整備すると共に、「建設工事特設サイト」を開設し、工事の進捗をリアルタイムで知ることが出来るようにしています。

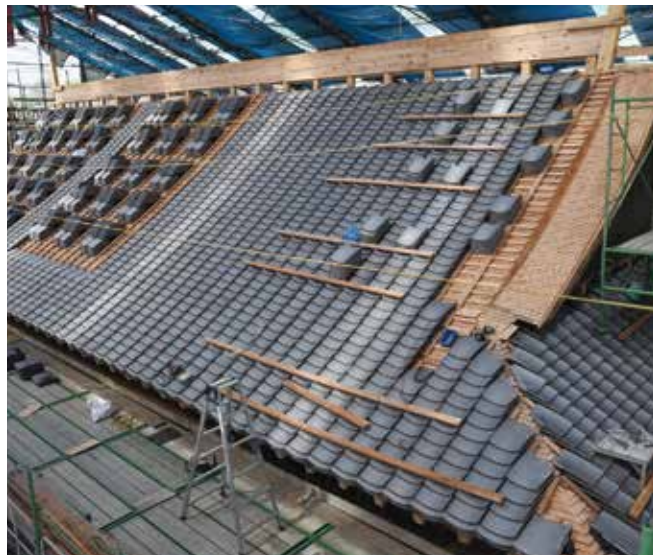


▲出土した鬼瓦



**LIVE** ライブ映像配信中

鶴丸城御楼門建設工事サイトでは  
工事の様子をリアルタイムで配信しています。  
<https://tsurumarujyo-goroumon.com/>



▲瓦葺きの様子

現在は、屋根瓦葺きや土壁作りなどの作業が進められています。

また、建設で使用する瓦にご自分やご家族の名前、メッセージ等を書いてもらう『瓦記名会』には多くの方が参加され、御楼門完成への期待の高まりが感じられます。



▲瓦記名会の様子



▲御楼門の柱立

# リニューアルの見所

## 楽しく分かりやすいジオラマ

戊辰戦争や明治日本の産業革命遺産に関連する「鳥羽の戦い」・「薩摩藩の砲兵」や「関吉の疎水溝」・「高炉（溶鉱炉）」などのジオラマ7点を3台のテーブルに展示して、薩摩藩や郷土の人々が明治維新で果たした役割などを分かりやすく解説しています。

### 1 戊辰戦争

#### (1) 鳥羽の戦い(S =1/100 (人：1/87))

討薩の表を掲げて大坂城から京に進む旧幕府軍と、薩摩藩と長州藩を中心とする新政府軍が鳥羽街道と伏見で戦いました。進もうとする大目付 滝川具拳と阻止する薩摩藩士 椎原小弥太との交渉が決裂した場面を再現しました。既に薩摩藩は城南宮から鳥羽街道までの道沿いと鴨川沿いに兵を潜ませ、縦隊で進む旧幕府軍を包囲する布陣を終えていたことが分かります。交渉相手の滝川に背を向ける椎原と、物陰に潜み戦いに備える薩摩藩兵の姿に注目してください。



滝川に背を向ける椎原



城南宮に潜む薩摩藩兵



鴨川沿いに潜む薩摩藩兵

#### (2) 薩摩藩の砲兵(S=1/10)

大砲（四斤山砲）を発砲する場面を再現しました。薩英戦争以来、軍備の近代化に努めた薩摩藩は、砲兵を戦力として効果的に運用し、新政府軍の勝利に貢献しました。砲兵のかぶる半首は黎明館所蔵の資料を参考に、家紋を入れて再現しました。砲兵頭のみが履く軍靴や、役割に応じた装備の違いに注目してください。



### 2 明治日本の産業革命遺産関連

集成館では、水車を動力に、鉄を造る高炉、大量の鉄を溶かして砲身を造る反射炉、砲身に穴を開ける鑽開台の3つの施設を動かし、鉄製大砲を製造しました。

#### 3 関吉の疎水溝(S=1/100)

世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産です。取水口付近の幕末期の様子を再現しました。

集成館事業では動力に水車を用いました。水位を取水口の高さに調整するために蛇籠を沈めるなど、現在は見ることができない、当時の取組と工夫に注目してください。



#### 4 高炉(溶鉱炉)(S=1/30)

現存する絵図を参考に幕末期の様子を再現しました。高炉は砂鉄や鉄鉱石から鉄を大量に造る製鉄施設で、オランダの技術書をもとに薩摩の在来技術を用いて建設されました。

流れ出る鉄や水車を動力とする轆轤の様子などとあわせて、内部の構造がわかるパネルにも注目してください。



# 黎明館の催し物(令和元年11月～1月)

## ■黎明館・東京大学史料編纂所共同プロジェクト

島津義弘没後400年記念展「戦国島津」

開催中～11月4日(月)

2階 第2特別展示室

## ■黎明館企画展

「戦国を駆けた島津四兄弟と家臣団」

11月19日(火)～1月19日(日)

3階企画展示室[常設展示入館料]

## ■特別展示

「御即位之図」

開催中～11月4日(月)

2階常設展示室

## ■学芸講座 3階講座室 [無料・申込不要]

「南九州の古道について2」

黎明館 学芸専門員 上村 俊洋

11月9日(土) 13:30～15:00

「中世の南九州と島嶼の世界」

黎明館 調査史料室長 栗林 文夫

12月8日(日) 13:30～15:00

「戦国を駆けた島津四兄弟と家臣団」

黎明館 学芸専門員 吉村 晃一

12月21日(土) 13:30～15:00

「さつま藩時代の旅のすがた」(仮)

黎明館 学芸課長 内倉 昭文

1月19日(日) 13:30～15:00

## ■楽しい体験講座

「正月を楽しもう」しめなわや稲穂かざりをつくりま

12月15日(日) 13:00～15:30

3階体験学習室 定員20名(要事前申込み)

講師 鎮守 寛さん(喜入ドングリ村主宰)

対象 小学4年生～中学生とその保護者

材料費 1人100円

申込み 11月14日～12月6日(9:00～18:00)

電話 099-222-5404(学芸課)

## ■ウィークリー・ミュージアムガイド

講師 黎明館展示解説員

毎週日曜日 11:00～12:00

[常設展示団体入館料・申込不要]

◎10:55までに1階常設展示入口前にお越しください。

1名様から御参加いただけます。

期 間	各種団体主催の催し物	会 場 特別展示室	観覧料	お問い合わせ先(敬称略)
10/29(火)～11/3(日)	フォトグラファーズ風写真展	第1	無料	フォトグラファーズ風 090(5085)8507
10/29(火)～11/4(月)	日本風景写真協会鹿児島支部支部展	第3	無料	日本風景写真協会鹿児島支部 支部長 有馬純彦 090(3986)9539
11/16(土)～12/1(日)	第74回 南日本美術展	第1・2・3	有料	南日本新聞社事業部 099(813)5053
12/5(木)～12/8(日)	竹道久展-心の風景・50年の歩み-	第1	無料	竹道久 0995(42)1975
12/5(木)～12/8(日)	～中学から古希まで～ 4日間限りの海老原政秋個展	第2	無料	海老原政秋 0995(26)0239
12/12(木)～12/13(金)	工芸維新-清華大学美術学院と鹿児島県の 文化交流作品展	第1	無料	鹿児島県文化スポーツ局文化振興課 099(286)2537
12/21(土)～1/12(日)	アニメ化30周年記念企画「ちびまる子ちゃん展」	第1	有料	KTS鹿児島テレビ企画事業部 099(285)8966
12/21(土)～12/22(日)	唐湊幼稚園美術展	第2	無料	唐湊幼稚園 099(252)8244
12/26(木)～1/5(日)	JA共済小・中学生書道・交通安全ポスター 作品コンクール展示会	第2	無料	JA共済連鹿児島 099(258)5565
1/7(火)～1/12(日)	古布ものがたり展	第3	無料	喜瑠園工房アトリエJ 藤元永美子 099(228)0901 090(9568)3004
1/11(土)～1/13(月)	第7回 こんな部屋いいな絵画コンテスト展示会	第2	無料	こんな部屋いいな絵画コンテスト 実行委員会 古市浩二 099(201)5337
1/16(木)～1/19(日)	第72回 県書道展 小・中・高の部	第1・2・3	無料	鹿児島県書道会 099(225)2121
1/21(火)～1/26(日)	第23回 松陽芸術祭	第1・2・3	無料	松陽高等学校 099(278)3986
1/31(金)～2/2(日)	第72回 県書道展 一般・高齢者の部	第1・2・3	無料	鹿児島県書道会 099(225)2121

\*掲載内容は10月1日現在のものです。催し物の日程等は変更になる場合もございます。

## ■休館日(令和元年11月～2年1月)

11/5.11.18.25

12/2.9.16.23.25.31

1/1.2.6.14.20.27

※月曜日(祝日の時は翌日)

毎月25日(土日の時は開館)

## ■文化の日(11月3日)は、常設展示を無料で御覧いただけます。

## ■常設展示入館料

個人 団体

一般 400円 300円

高校・大学生 250円 150円

小・中学生 150円 80円

※障害者無料 ※団体は20名以上

※鹿児島県内に居住する70歳以上無料

※鹿児島県内に居住する18歳以下の方は、

土日祝日は無料



## 祝!常設展示リニューアル 7月19日グランドオープン!

明治維新150周年を記念して進めてきた常設展示のリニューアルが完了し、本年7月19日にグランドオープンしました。

2階の明治維新コーナーには、薩摩藩や郷土の人々が明治維新で果たした役割などを、「薩摩藩の砲兵」や、「関吉の疎水溝」などのジオラマを用いて分かりやすく展示しています。

また、館内の案内や展示パネル等を4カ国語(日、英、中(簡体・繁体)、韓)で表記し、多言語対応の音声ガイドシステムも導入しました。

新しくなった黎明館へ、ぜひお越しください。



# 黎明

Vol.37 No.3  
(通算145号)

発行年月日 令和元年11月1日

編集・発行 鹿児島県歴史資料センター黎明館

所在地 〒892-0853 鹿児島市城山町7番2号

Tel(099)222-5100(代表) Fax(099)222-5143

ホームページアドレス <http://www.pref.kagoshima.jp/reimeikan/>

メールアドレス [reimei@pref.kagoshima.lg.jp](mailto:reimei@pref.kagoshima.lg.jp)